

幹細胞使い再生医療

脳梗塞や脊髄損傷など対象

釧路市の釧路孝仁会記念病院（原田英之院長・2332床）は、患者本人から採取した幹細胞を使用する再生医療を開始した。

釧路市の釧路孝仁会記念病院（原田英之院長・2332床）は、患者本人から採取し、医療を開始した。

同病院は、2007年の開設時から再生医療実施を見据え、院内に専用施設を用意していた。14年から試験的に約30例実施し、脳梗塞や脊髄損傷で動かなくなった腕が動くようになるなどの効果がみられたという。

各科医師5人のほか、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技士、リハビリスタッフ、培養士、事務スタッフなどで再生医療チームを結成。対象疾患は、脳梗塞や脊髄損傷、アトピー性皮膚炎、変形性膝

関節症で、患者の皮下脂肪から間葉系幹細胞を採取し、培養施設で培養して、注射や点滴で患者に投与する。費用は250万円程度（全額自己負担）。今後は月6件ペースで対応していく。